

がっしょう うた 合掌の歌

■ 楽曲データ

歌詞：九條武子 作詞

楽曲：野村成仁 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M0611

■ 創作の経緯

詞は、歌文集『無憂華』（実業之日本社、1927年）所収「修道の一路」の一節。
作曲の経緯についての詳細は不明。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻譯課 1939年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 詞について

作詞の九條武子さま（1887～1928）は、本願寺第21代明如上人の二女としてご誕生になられました。義姉である大谷籌子さま（第22代鏡如上人裏方）と共に、仏教婦人会や京都高等女学校・京都女子高等専門学校（現・京都女子学園）を創設し、女性の教化や教育振興に努められました。佐佐木信綱門下の歌人としても知られ、『金鈴』『薰染』などの歌集を遺されています。

この《合掌の歌》では、まず1番で、人生の旅路にゆきくれ、あてもなくさまよう旅人が、本当にさとの彼の岸へ至ることができるだろうか、と問われます。続く2番では、そのような旅人が、久遠の昔から光を放ち導いてくださっている阿弥陀さまのはたらきにめざめ、喜びの心から、ただただ合掌する姿を歌っています。

2番の最後に「わが合掌」とありますが、これも自らのはからいから起こるものではなく、阿弥陀さまのはからいによるものです。作詞者の人生の遍歴と深い信仰生活を通して生まれた詩として味わいたいものです。

◆曲について

作曲の野村成仁（1874～1947）は、東京高等師範学校附属音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）を卒業した後、平安中学校（現・龍谷大学付属平安高校）に勤務したことが縁となり、仏教讃歌の作曲を行うようになりました。《みほとけにいだかれて》《報恩講の歌》など、多くの作品を遺しました。

◆歌い方について

- ① ゆっくりとした8分の6拍子の曲です。歌っているうちに間延びして遅くならないよう、テンポにのって歌いましょう。
- ② 全体的に、ブレス（息継ぎ）直前の音は短くなりやすいので、注意しましょう。
- ③ 音の流れを大切に、なめらかに歌えるよう練習しましょう。
- ④ 2小節目の最後の音（レ）は、ピッチ（音高）を正確に。
- ⑤ 8小節目の最後から10小節目にかけて、最初の盛りあがりがあります。少し大きく歌いましょう。
- ⑥ 12小節目の最後から16小節目までと、そのあとの4小節は、同じメロディーを繰り返します。言葉にそって抑揚をつけましょう。
- ⑦ 20小節目の最終拍からはフォルテ（強く）、その後デクレッシェンド（だんだん弱く）して22小節目の最終拍からは少しおさえて歌います。
- ⑧ 最終小節は、長く伸ばしている間にピッチが下がらないように気を付けましょう。

◆用途など

日常の例会や夜の法座などでも歌っていただきたいものです。音源は、CD『憶念』に収録されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 38（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第165号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.